

# 新型コロナウイルスワクチン予防接種 説明書

この予防接種は、本人の希望を得て行います。正確な意思確認が困難な場合には、家族やかかりつけ医によって、特に慎重に、本人の接種意思の有無の確認をしてください。接種を希望することが確認できた場合に限り、接種を行うことが出来ます。最終的に意思確認ができない場合は、予防接種法に基づく接種を行うことができません。この説明書をよく読んで、予防接種の必要性や副反応を十分に理解したうえで接種してください。

## 新型コロナウイルスワクチン予防接種について

新型コロナウイルス感染症は、新型コロナウイルスに感染することによって起こります。予防の基本は、流行前に、予防接種を受けることです。予防接種をしてから抵抗力がつくまでに2週間程度かかるとされています。発病・重症化を防ぎます。

## 予防接種を受ける前に

### (1) 一般的注意

- ① 必要性や副反応についてよく理解しましょう。十分に納得できない場合には、接種を受けないでください。
- ② 予診票は接種をする医師にとって、予防接種の可否を決める大切な情報です。接種を受ける人が責任をもって記入し、正しい情報を接種医に伝えてください。

### (2) 予防接種を受けることが適当でない人

- ① **接種当日、明らかに発熱のある人**：一般的に、体温が37.5度以上の場合。
- ② **重篤な急性疾患にかかっている人**：重篤な急性疾患にかかっている人は、その後の病気の変化がわからないので、その日は見合わせるのが原則です。
- ③ **新型コロナウイルスワクチンで、アナフィラキシーを起こしたことがあることが明らかな人**  
※「アナフィラキシー」とは通常接種後約30分以内に起こり、生命に関わる重度のアレルギー反応、激しい全身反応のことです。
- ④ **新型コロナウイルスワクチンの予防接種で、接種後2日以内に発熱や全身性発疹等のアレルギーを疑う病状があらわれたことがある人**
- ⑤ **その他、予防接種を行うことが医師に不適當な状態と判断された人**



うら面もご覧ください



### (3) 予防接種を受けるに際し担当医師とよく相談しなくてはならない人

- ①心臓病、腎臓病、肝臓病、血液の病気などで治療を受けている人
- ②過去にけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある人
- ③過去に免疫不全の診断を受けた人および近親者に先天性免疫不全症の人がいる人
- ④ワクチンの成分に対してアレルギーを起こすおそれのある人
- ⑤抗凝固療法を受けている人、血小板減少症、または凝固障害のある人

### 新型コロナウイルスワクチン予防接種の副反応

主な副反応は、注射した部位の痛み、頭痛、関節や筋肉の痛み、疲労、寒気、発熱等です。また、稀に起こる重大な副反応としてショックやアナフィラキシー（じんましん、呼吸困難、血管浮腫等）があります。なお、本ワクチンは、新しい種類のワクチンのため、これまでに明らかになっていない症状が出る可能性があります。

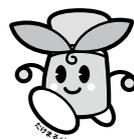
ごく稀ではあるものの、mRNAワクチン接種後に心筋炎や心膜炎を疑う事例が報告されています。接種後数日以内に胸の痛みや動悸、息切れ、むくみ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。また、ごく稀ではあるものの、mRNAワクチン接種後にギラン・バレー症候群が報告されています。接種後、手足の力が入りにくい、しびれ等の症状が現れたら、速やかに医療機関を受診してください。

### 予防接種による健康被害救済制度について

定期の予防接種によって引き起こされた副反応により、医療機関での入院治療が必要になったり、生活に支障が出るような障害を残すなどの健康被害が生じた場合には、予防接種法に基づく給付を受けることができます。

健康被害の程度などに応じて、医療費、医療手当等の区分があり、法律で定められた金額が支給されます。ただし、その健康被害が予防接種によって引き起こされたものなのか、別の原因によるものなのか、その因果関係を様々な分野の専門家からなる国の審査会にて審議し、予防接種によるものと認定された場合に給付を受けることができます。そのほか、わからない時は健康課へお問い合わせください。

生駒市健康課



電話 75-2255（直通・セラビーいこま）